

(別紙)

水稻の出穂状況（8月8日現在概況速報）について

農業普及技術課 農業革新支援担当

- 8月8日現在、県全体で90%の水田で出穂したとみられる。
地帯別の出穂割合は、北上川上流88%、北上川下流93%、東部79%、北部74%である。
- 県全体の出穂盛期（50%出穂）は平年より1日早い8月4日頃、終期（90%出穂）は2日早い8月8日頃と推定される。

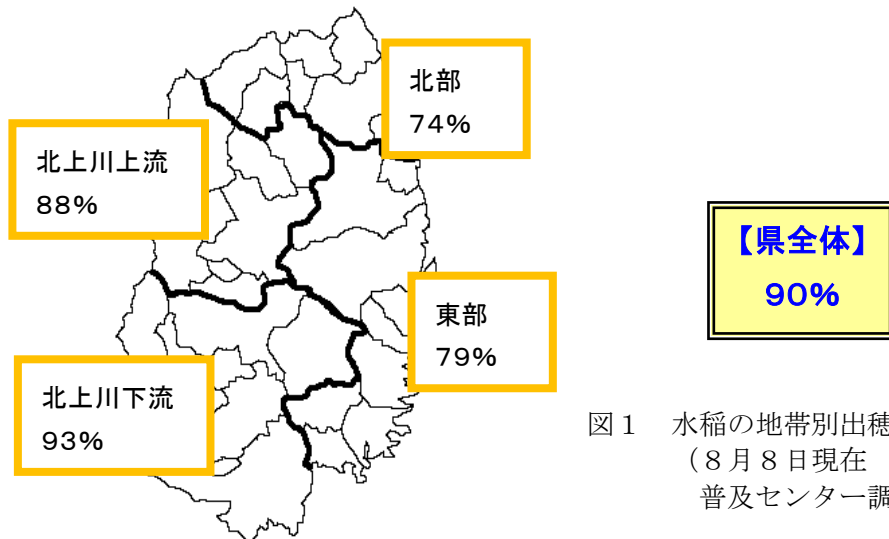
表1 県内水稻の出穂状況（8月8日現在、各農業改良普及センター調べ）

地帯名	出穂割合 (%)				出穂時期								
	本年	過年次同時期			本年 (月/日)			平年 (月/日)			平年差 (日)		
		H30	H29	H28	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	88	73	84	90	8/1	8/4	(8/9)	8/2	8/6	8/10	-1	-2	-1
北上川下流	93	94	87	96	7/30	8/3	8/7	8/2	8/5	8/9	-3	-2	-2
東 部	79	67	62	96	7/31	8/5		8/3	8/6	8/11	-3	-1	
北 部	74	78	64	95	8/3	8/7		8/3	8/6	8/11	0	+1	
県 全 体	90	87	84	95	7/31	8/4	(8/8)	8/2	8/5	8/10	-2	-1	-2

注1) 出穂した水田の割合が10%を始期、50%を盛期、90%を終期（市町村単位で調査⇒作付面積による加重平均）。

注2) 平年は、平成21～30年の10ヵ年の平均値。

注3) 括弧内は、一部の市町村で盛期に達していないため、推定値として記載。



3 栽培管理のポイント

- 東北地方の1か月予報（仙台管区气象台，8月8日発表）によると、向こう1か月の平均気温は、高い確率が60%と予想されている。
気温が高い日が続く場合（概ね日中30℃以上、夜間23℃以上）、高温による玄米品質の低下を回避するため、積極的な水の入替えにより地温の低下を図る（特に夜温の低下に努める）。
- 斑点米の原因となるカスミカメムシ類の発生量は「やや多」の予想である。
穂揃1週間後の薬剤防除を確実に実施するとともに、カメムシ増殖源となる雑草（ホタルイ類等）の多発田では、追加防除を検討する。
- 穂いもち病は基本防除を徹底するとともに、必要に応じて追加防除を実施すること。
- 早期落水は、収量や品質低下の原因となるので避け、出穂後30～35日経過してから完全落水とする。
- 刈取時期に関する今後の情報に注意し、適期収穫できるよう、コンバインや乾燥調製施設の清掃・整備を行うこと。